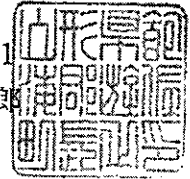


平成20年10月16日

山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴 2 1 1

遊佐町長 小野 寺 喜 一 良



平成20年9月19日付国道企第37号で依頼ありました標記の件について、別紙のとおり回答します。

FAX : 0 2 3 4 - 7 2 - 3 3 1 0

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山形県遊佐町

1. 高速交通網の整備

いま、地方にとって高速交通網の整備が最大の課題です。災害発生時の救援や患者搬送道路としてのライフラインの確保は、地方にとって安全安心な暮らしに欠かせない「命の道路」です。特に、山形・秋田県境において広域的な連携を図ることができる道路は一般国道7号のみです。その国道が通行不能となった場合、代替路線がないため、災害時の救急搬送や物流等に大きな不安を抱えています。また、観光振興という観点からも都市と地方間の所要時間の短縮が図られ、交流人口の拡大が期待できます。基礎的な社会資本としての本路線の整備は、地方の健全な発展に資するものであり、全線がつながれば、日本海沿岸地域の交流は盛んになり、新たな観光ルートの創出につながるものと期待されます。

日本海沿岸東北自動車道(酒田みなと～遊佐間)、日本海沿岸東北自動車道(遊佐～象潟間)の未事業化区間の早期整備をお願いします。

2. 交通弱者対策等

道路整備は自動車ユーザー対策に重点が置かれており、歩行者や交通弱者へ対応した整備が充分でない。

②－１地域の現状と抱える課題

○ 現状 1. 高速道路等の整備の遅れ。 ・積雪寒冷地のため冬季に於いて高速性が確保できない。 ・自動車交通に依存している割合が高く、災害時等において町民の生命を守るためのリダンダンシーの確保ができない。 ・高次医療施設が少ないため、アクセス性の向上を図らないと町民の命を守ることが出来ない。 ・広域的な観光産業が期待できない。 ・農産物・水産物の販路拡大、生産量の増加が図れない。 ・物流の効率化や、企業立地による産業の増進、雇用の増加図れない。 ・隣接県との交流連携や交流人口の増加が図れない。 ・地域格差の解消が図れない。 2. 町道の除雪 国道、県道の除雪は一定のレベルに達しているが、本町の町道については、管理延長245.0kmに対して146.3kmと約60%にしか達していない。積雪期間は町道閉鎖や、地域集落のボランティアに頼っている現状にある。歩道除雪については、県道、町道ともほとんど対応出来ていない。生活道路や歩行者対策が課題。	○ 課題 町民生活の基盤をなす交通ネットワークづくりは、本町の地域発展をはかるうえで重要な課題であり、とりわけ、東北横断自動車道酒田線及び日本海沿岸東北自動車道と現国道とのアクセス、インターチェンジの設置、さらにはこれらに関連する土地の有効利用、生活環境の整備を含め、町民と町を訪れる人々に、分かりやすく安全で便利な道路づくりを進める必要がある。そのため、日本海沿岸東北自動車道酒田みなと一遊佐区間と山形・秋田県境区間の未事業化区間の早期整備が図られるよう要望する。 管理延長全線開通及び歩道除雪車必要台数の整備
--	---

②—2地域の目指すべき将来像

1. 道路及び橋梁の整備促進

(1) 幹線道路の整備

近隣市町・集落間を結ぶ道路の整備を促進し、幹線道路網の充実を図る。また、通学などの自転車・歩行者の安全を図るため歩道の整備を促進する。

(2) 一般町道の整備

集落内道路の側溝整備・補修を行い安心して利用出来る道路環境の維持管理に努める。

(3) 橋梁の整備

今後の高速道路整備を視野に入れ、国の長寿命化施策と町の橋梁整備及び維持管理計画に基づき抜本的な橋梁維持・架け替えを実施する。

2. 高速交通網の充実

(1) 日沿道の早期建設促進

日本海沿岸東北自動車道の酒田みなと～遊佐間の延伸については、新直轄方式の手法のもと、遊佐インターチェンジ(仮称)の整備と併せた早期着工を促進する。また、遊佐～象潟間の早期調査を要請する。

様式④

山形県遊佐町

山形県遊佐町

○重点事項 1. 地域活性化 2. 日本海沿岸域における津波警戒体制と津波発生時の緊急避難にかかる情報発信拠点施設及び物資搬送道路の整備	○代表事例 ・日本海沿岸東北自動車道の整備 ・道の駅鳥海ふらっとを防災拠点施設として整備を図る。	○期待する効果や評価等 ・広域交通（物流、観光、災害時支援等）の速達性、安定性の確保による地域活性化及び安全安心な暮らしの実現。 ・国道7号等幹線道路の安全運行を確保しながら、災害発生時における防災情報の発信や、平時における道路情報（所要時間等）などリアルタイムな情報発信に資する。	○その他
--	--	---	-------------